

## 編集後記

◇飯吉総長の巻頭言にありますように、多様化した今日の学生群には、多様な授業の形態が模索されなければならないように思われます。

◇教育は、学校教育にとどまらず、家庭・地域・職場など広範な領域で日々行われ、すべての人にかかわりを持ち、しかもすべての人が一家言をもつ重要かつ困難なテーマです。1つの具体的な論点、例えば小学校への英語教育の導入の是非をめぐるでも、まったく正反対の意見が表明され、正解が得られないまま果てしなく論争が続くのが通例です。

◇本誌にも、教育という難解な問いに対する真摯な試み、地道な実践報告が寄せられ、教育改善に日夜情熱を注いでおられる方々を含めた読者の皆様に裨益するところ大なりと信ずるものです。

◇本誌は、レフェリー制による査読論文と、一般的な寄稿論文・資料・エッセイ等からなっています。しかし、どのジャンルの原稿も、編集委員の献身的な努力で、すべての原稿のすべてのページにわたって、子細漏らさぬ校正が施されています。新米の編集子は、編集委員によるそのあまりの厳密さに、少なからぬ驚愕を覚えさせられています。(校正恐るべし)

◇質量ともに充実しつつある本誌に、当「編集後記」はもはや入る余地がなくなったとの認識で、次号以降については存続の可否が検討されることとなりました。(後記肅正)

冬季オリンピックの開催される年にトリの役割を演ずることに結果的になりましたが、当欄の有無にかかわらず、今後とも本誌の一層の充実に編集委員一同微力を傾けて参ります。引き続きご愛読、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。(昌)

2006年1月